



# 未来へつなごう！ あなんのごっつい自然

～阿南市生物多様性ホットスポットを紹介～



## 阿南市生物多様性

### ホットスポットとは

阿南市は、たくさんの自然に囲まれていて、「自然が豊かである」と感じる方が多いと思います。皆さんは「阿南市内で自然が豊かな場所を紹介してください」と尋ねられたら、どこを紹介しますか？

「豊かな自然が残っている」と思われる場所には、たくさんの生き物がすんでいるイメージがありますよね。自然の豊かさを生き物の豊富さとして捉えた場合、生き物の種類や数で評価することができます。しかし、すべての場所の生き物の種類と数を調べることは大変です。そこで、自然の豊かさを「希少な生物がすんでいる」という指標で評価する方法があります。ここで示す「希少な生物」とは、環境省や徳島県が指定している「絶滅危惧種」や特定の地域にしかない「固有種」のことを指します。

絶滅危惧種は、数がどんどん減っている生き物のことです。数が減っている原因として、①人間による開発や気候変動などによりすむ場所が減った、②外来種の侵入や環境汚染などによってすむ場所がなくなった、③乱獲などが考えられています。裏を返せば、絶滅危惧種がすんでいる

ということは、他では減ってしまった自然環境が残っている、つまり地域の人によって大切に守られてきたということを示します。また、固有種はそこにしかない生物のことで、その生育や生息場所は、世界でもそこにしかない特別な場所であるということを示します。希少な生物がたくさん住んでいるということは、そこが多様な環境のある豊かな自然であると言えるのです。

### 生物多様性って何

「生物多様性」といわれても、なかなかぴんとこない人も多いのではないのでしょうか。阿南市で平成25年2月に実施したアンケートでは、「生物多様性の意味を知っている」と答えた方は22%にとどまりました。

「生物多様性」の意味を要約すると「遺伝子や生物種、生態系のそれぞれが多様であること、生物がつながりあっていること」となります。でも、この説明で「分かった！」と答えられる人は少ないと思います。

そこで、環境省が説明として用いているのが、「生き物たちの豊かな個性とつながり」という言葉です。ここでいう「個性」とは①同じ種でも違いがあるということ、②生き物にはたくさ

んの種類があるということ、③いろいろな環境があるということです。そして「つながり」とは、食べたり、食べられたり、競争したり、助け合ったりという生き物同士の関係や、場所と生き物の関係のことです。生き物は、自分ひとりでは生きていくのではなく、いろいろな生き物とつながりを持ち、さまざまな環境が存在する中で生きています。例えば、伊島のササユリが花を咲かせ続けるためには、ササユリが生育する里地・里山、花粉を運ぶ昆虫、昆虫が生息する山地や草地、河原が必要であり、さらに里地・里山を維持する人の営みが必要というように、さまざまな自然環境や人を含めた生き物の活動が必要です。このような多様な生き物の個性とつながりを、「生物多様性」といいます。

### ホットスポットの選定

阿南市では、ホットスポットを選定するにあたり、阿南工業高等専門学校と連携して作業を進めてきました(表1)。ホットスポットを選定する際に、先に紹介した2つの基準のほかに、もう2つの基準を決めています。

1つ目は、「地域の人たちによる保全活動」です。豊かな自然が今あるのは、地域の人の人によって長い年月をかけて慈しまれ守られてきたからです。この守られてきた豊かな自然を、未来の

表1 ホットスポット選定までの過程

平成24年	5月	阿南市と阿南工業高等専門学校が連携し、研究専門部会を設置
	5月～10月	専門家への聞き取り調査
平成25年	2月	生物多様性に関するアンケート調査を実施(有効回答数943人)
平成26年	2月	第1回生物多様性フォーラムを開催
	4月	「阿南市生物多様性ホットスポット選定委員会」を設置
	11月	選定委員会において「阿南市生物多様性ホットスポット」を選定
平成27年	2月	第2回生物多様性フォーラム開催・ホットスポット公表

図1 ホットスポットの位置



人たちへと残すためには、今まで同様守りつつ賢く利用していく必要があります。そこで、地域の人たちによって守り伝える活動が実施されていて、今後も利用と保全の両立が期待される場所をホットスポットの対象としました。

2つ目は、「地域のシンボリック自然環境や生物などの存在」です。シンボリックの存在は、環境変化を知る指標の一つになります。シンボリックとなる生物への注目が高いほど、地域の人たちが環境の変化を素早く感知するため、保全につながりやすいということも理由の一つです。

これら4つの基準を評価して、平成26年度に6カ所のホットスポットを選定しました(図1・表2)。

表2 選定されたホットスポット

名称	範囲	特徴
① 太龍寺近辺	那賀川の南側から太龍寺に至る遍路道周辺を含めた地域	アナンムシオイガイをはじめとする新種や固有種の陸生巻貝が生息、遍路道(歴史)を育む豊かな森
② 桑野川上流	オヤニラミの生息範囲	県の天然記念物であるオヤニラミが生息できる清流と豊かな森
③ 出島野鳥園	出島野鳥園とその周辺	希少な野鳥が飛来する貴重な塩生湿地
④ 那賀川・桑野川河口域	河口一帯	シオマネキや固有魚など貴重な生物が確認されている、豊かな自然の象徴的風景
⑤ 伊島	3つの島(伊島、前島、棚子島)	ササユリなど貴重な生物が多数確認されている
⑥ 蒲生田	岬や海浜、大池を含む地域	アカウミガメの産卵場所、大池の湿生植物など貴重な生物が確認

# ホットスポットの利用と保全

「阿南市の皆さんに親しまれ、愛され、尊ばれている場所であり、阿南市が世界に誇れる豊かな自然環境」であるホットスポットを、次の世代に胸を張ってバトンタッチするためには、持続可能な利用と保全が重要です。そこで、ホットスポットを選定する際、保全方針も合わせて決めました。次の4つです。

①さまざまな関係者が協力し合って活動できるよう支援する、②阿南の豊かな自然の素晴らしさや大切さ、守り方を伝える、③定期的に自然を調べ、選定地を再評価する、④利用と保全の両立をめざす活動を支援する。

今回のホットスポットの選定は、阿南市の豊かな自然を「見える化」し、この豊かな自然を子どもたちに引き継いでもらえるよう守るだけでなく、恵みが枯渇してしまうような利用をやめ、自然の状況を考慮し、守るべきところは守りつつ賢く利用していくことをめざすものです。

## 未来へつなごう！

### あなンのごっつい自然

今回選定したホットスポットでは、すでにさまざまな活用がされて、いく

つもの生態系サービスを私たちは受けていますが、阿南市の宝としてさらに活用することが可能です。例えば、①「ものづくり」の活性や後押しとしての活用、②「エコツアー」などの持続的な利用」のモデルとなるような活用、③「教育」における活用、④「研究の場」としての活用、⑤阿南市を世界にアピールするための魅力とする、⑥郷土愛を深めることにつなげる、⑦Uターンやイターンなど移住促進・定住化につなげる活用です。

世界に誇れる豊かな阿南の自然環境を代表する阿南市生物多様性ホットスポットを、阿南市の宝として守り続けていきたいと思います。

阿南市と阿南工業高等専門学校では、選定されたホットスポットの紹介を市ホームページや広報あなんで行います。また、モデル地区を選定し、地区の方々など関係者と共に保全活動の協議会を運営する予定です。

今月から6カ月にわたり、6カ所のホットスポットを紹介します。

- (1) 伊島 6月号、(2) 蒲生田 7月号、
- (3) 那賀川・桑野川河口域 8月号、
- (4) 桑野川上流 9月号、(5) 太龍寺近辺 10月号、(6) 出島野鳥園 11月号

問い合わせは 環境保全課 (☎22-13413) へ

## 「未来へつなごう！あなンのごっつい自然」を紹介 (1)

阿南市生物多様性ホットスポット

# 伊島

範囲：伊島・前島・棚子島の3つの島



ササユリは地域のシンボリックな花で、見ごろは6月上旬です。そのほか多くの希少種が確認されており、湿地と藻場は「日本の重要湿地 500」に指定されています。ササユリの保全活動は地元中学校や地域の方だけでなく、新野高校など多くの人によって長期間行われています。また、独自の文化や豊かな水産資源を育む豊かな自然が、地域の努力によって守られています。

### イベント情報

#### 伊島芸術祭2015「ささゆりまつり」

期間 6月7日(日)まで  
 場所 伊島全島 メーン会場は漁港広場  
 内容 観光トレッキング、ワークショップ、屋台村、遊覧船ほか  
 問い合わせは ささゆり祭り実行委員会 神野 (☎090-4972-3336) へ

